

## パンダ色の自動車

JJ1SXA 池

警視庁のパトカーは、昭和25年6月、アメリカ軍からオープンカーを譲り受けて、初めて登場したのだそうで、資料は一寸古いですが、平成15年4月1日現在、パトカー（ミニパトカーを含め）は、1,103台あるそうです。

パトカーが、日本で初めて登場した当時、日本で生産される自動車の色は、ほとんどが白色で、パトカーも白一色だと一般の自動車との見分けがつかないので、白色車体の下半分を反対色の黒色に塗って見分けがつくようにしたようで、これが、パトカーの白黒2色のはじまりで、昭和30年には、全国に統一されたそうです、決して、パンダを真似たわけではなさそうですね。

高速自動車道を飛ばしている時、この色なら、一寸気をつけていれば、滅多にご挨拶はされませんが（でも時々、停車してご挨拶を受けている方もたまには見掛けますが）、パンダ色になり損なって、普段は恥ずかしいのか隠している、遠慮っぽく少し小さめの、くるくる回る赤い灯火を屋根に乗っけて、大きな断続音を出す車には、ご挨拶は受けたくありませんね。（頬被りして見回りの自動車の事です）

ちなみに、こういう車が多く走っているのは、「自動△△△△装置設置路線」の看板が少ない道路・区間に多いようで、男性のアベックが乗車しています。

また、「自動△△△△装置設置路線」では、通常2つ目の看板から数キロ以内に、高性能な記念撮影装置があるようです、大体1つ目の看板に気付くと、少しアクセルを踏む足の力が少し抜けるようですが、だんだん飽きてきて2つ目の看板を横目に、右足に体重をかける方も多く、記念撮影装置直前で、しっかり見届けるためか急ブレーキを踏む方がいたり、ブレーキ痕が結構ありますね。

ということで、2つ目の看板が出てきたら、ゆっくりペースで、記念撮影装置をしっかり見届けましょう、しかし、例外もありますので、余りこの文章は信用しないで下さい。

また、いわゆる「▲ズミ取り」といわれる、愛車の速度計の較正をやっていただける場所もありますが、対向車が親切にライトをパッシングしてくれる時もあります、トンネルを出た後ライトを消し忘れかな？などと思わず、注意しましょう、またパッシングしてくれるのは良いのですが、結構遠い地点でやってくれたりすると、何でも無いじゃないかと安心した頃に、そんな現場だったなどと言うこともあります、

大体こういう場所は、それまでが渋滞箇所が多く、そこを過ぎてようやくほっとして、アクセルを踏む足に力が入る頃に遭遇するケースが多いようです。

他にも、ビームが後方からではなく、対向車線からも向けていただける場合もありますので、前方から進行する、パンダ色の車にもビームを合わせやすいように、速度を落として敬意を表しましょう。（常に法定速度内の安全走行なら全く関係ありません）